

第1学年 生活科学習指導案

日 時 平成16年10月15日（金）5校時

児 童 1年1組 男12名 女13名 計25名

指導者 山崎 美喜子

場 所 1年1組教室

1 単元名 いきものとなかよし

2 単元について

(1) 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の生活科の内容（7）「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。」を受け、子どもたち一人一人が身の回りの生き物と触れ合う活動を中心に設定したものである。この活動を通し、身の回りの生き物への興味・関心を深め、いろいろな生き物の体のつくりや特徴、また、それらが生命をもっていることに気づき、進んでかかわったり大切にしたりすることができるようにすることをねらいとしている。

(2) 児童の実態

子どもたちは、校庭の遊びや学校の周りの探検を通して、少しずつ身の回りの生き物に目を向けるようになってきている。外の活動で小さな生き物を見つけると、捕まえようとしたり、休み時間には袋を持って嬉々として虫探しに出かけたり、進んで生き物に親しもうとする子どもが見られるようになった。多くの子どもは「生き物が好きだ。」と答えている。しかし、生き物の世話をした経験のある子や生き物の世話の仕方とえさの種類が分かるなど生き物に触れて実際に世話をしている子どもは少ない。生き物に関心はあるけれどもさわることができない子どもや自分では捕らずに捕ってもらった生き物を眺めて喜んでいるだけの子どもがまだまだ多く、生き物とかかわる体験が不足していることが伺われる。生き物が好きで昆虫などを捕まえて喜んで学級に持ってきた子どもでも、虫かごに入れたままえさを与えなかったり、汚れたままでもあまり気にならなかったり、いつの間にか忘れてしまい捕った生き物たちが死んでしまうことも少なくないなど、生き物の生命を大切にし、根気強く世話をしようとする態度はまだ身につけていないようである。

(3) 活動の構想

単元を通して、一人一人が生き物にさわったり、根気強くお世話し続けることができるように活動を工夫していきたい。そのために「見つけたよカード」や「見つけたスピーチ」に取り組みせ、子どもたちの身の回りの生き物を意識的に見る目を養いたいと考える。そして、虫やその他の生き物が好きだと感じることができる子どもたちに育てていきたい。

「つかむ」段階では、この単元全体を通して、生き物の体の特徴に子どもたちの目が自然に向けられるように、「あり」に着目する活動を設定する。「あり」という見なれた昆虫を改めてよく見ることで、本当はよく見ていなかったことに気づき、新しい発見への驚きがこれまでの生き物への見方を広げ、これからの活動に意欲的に取り組む動機づけとしたい。

「かかわる」段階では生き物探しや虫取り大会を行い、楽しく生き物探しをさせながら、生き物への関心を高めたい。生き物をより身近なものにし、理解を深めるためにも捕まえた生き物の名前や育て方をできるだけ子どもたちの手で調べられるよう図鑑や絵本を持ち寄らせるなどの学習環境を整えたい。つかまえた虫は、可能な限り学級で飼育させ、その飼育活動を通して虫や生き物を観察させたい。それまで虫や

生き物を注意深く観察することがなかった子どもも、身近でよく観察したり、世話の方法を自分たちで考えたりするなど積極的に生き物にかかわることができるようになるであろう。そして、その活動が、生き物の様子や変化をとらえ、より意識的に生き物を見ることへとつながり、新たな気づきにつながっていくと思われる。また、生き物をお世話することを通して生き物への愛着を持ち、生命を大切にしようとする態度を培っていくことができると思われる。

「まとめる」段階では、これまでの生き物とかかわる活動の中で得られた自分の思いや、発見や気づきを振り返らせ、まとめていく活動に取り組みさせる。子どもたちは、活動のまとめとして作品などを作る経験はないので、絵本や図鑑などの参考作品を提示し、作品へのイメージを持たせながら制作に取り組みさせたい。この表現活動をさせることによって、自分の思いや気づきがより明確になり、子どもの確かな活動の足跡として残り、活動への自信となるであろう。また、でき上がった作品を友達や家族や教師など他者に発表する場を設定することにより、自分に満足し、自分への自信となり、次の学習への意欲へとつなげていきたいと考える。

3 単元の目標

【生活の関心・意欲・態度】

- ・ 身近な生き物に関心を持ち、進んでかかわろうとする。

【活動や体験についての思考・表現】

- ・ 生き物の世話やふれ合いを通して、適切な世話の仕方を考えたり気づいたことを自分なりの方法で表現したりすることができる。

【身近な環境や自分についての気づき】

- ・ 生き物の世話やふれ合いを通して、生き物の特徴や生き物は生命を持っている大切な存在であることに気づく。

4 単元の指導計画（15時間）

段階	活動内容	教師のかかわり	評価規準（評価方法） 【関】 関心・意欲・態度 【気】 気づき 【思】 思考・表現	身につけたい力 （船小6力）
つかむ (1)	<p>1 オリエンテーション1</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な虫、ありを描く。 ありを探して自分の絵との違いや似ているところに注目しながら、ありの様子や体の特徴に気づく。 <p>・気づいたことや不思議に思ったことなどを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生き物クイズを通して、学習への意欲を持たせる。 ありを捕まえるための用具や容器などを準備させる。 ありを観察するときの視点を持たせる。 	<p>【関】 気づいたことや不思議に思ったことを発表しながら虫やその他の生き物への関心を持つようとする。 （観察）</p> <p>【気】 ありの様子や体の特徴に気づくことができる。 （観察）</p>	課題設定能力
かかわる (6)	<p>2 秋の虫探しをしよう。 ・・・・・・・・・・ 3</p> <ul style="list-style-type: none"> 虫や他の生き物を探す。 捕り方を教え合う。 とった虫などを見せ合う。 <p>3 生き物の飼育をしよう。 観察しよう。 ・・・・・・・・・・ 3</p> <ul style="list-style-type: none"> お世話の仕方を考える。 飼いながら気づいたことを観察カードに記録する。 どんな仲間に分けられるか考えて分けてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物の名前を聞いたり調べさせたりして、生き物への関心を高めさせる。 見つけた生き物を見せ合わせいろいろな生き物を観察させる。 飼育の仕方を調べ、教え合わせたりする場を設定し、生き物とのふれあいが少なかった子どもも飼育活動への意欲をもてるようにさせる。 気づいたことを観察カードに記録させる、 子どものそれぞれの観点で仲間分けをさせながら飼っている生き物の特徴を明らかにさせる。 	<p>【関】 虫やその他の生き物を楽しんで探そうとする。 （観察）</p> <p>【関】 進んで生き物のお世話をしようとする。 （観察）</p> <p>【気】 生き物の様子や特徴に気づくことができる。</p> <p>【思】 気づいたことなどをカードに記録することができる。（観察カード）</p> <p>【思】 生き物の特徴を考えながら、仲間分けの観点を考えることができる。（観察・発表） （ふりかえりカード）</p>	<p>課題設定能力</p> <p>問題解決能力</p> <p>総合された知識</p> <p>表現・創造力</p> <p>問題解決能力</p> <p>思考・評価力</p>
まとめる (8)	<p>4 どんなまとめかたをしようかな。・・・・ 6 1/6 《本時》</p> <ul style="list-style-type: none"> 虫や生き物のことを誰に教えようか考える。 図鑑・絵本・紙芝居・粘土などまとめ方を考える。 材料や道具を選んで自分らしい作品になるように制作する。 <p>5 まとめ発表会をしよう。・・・・ 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き手に分かるように話す。 分からないことは質問する。 よかったと思うことを感想として話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードを元にして、これまでの活動を振り返らせ、それぞれの子どもの作品や表現への思いを持たせる。 作品例をもとにして、話し合わせ、まとめる活動へのイメージを持たせる。 子どもの思いや自由な発想が生かせるような材料や道具を選択できるように工夫する。 それぞれの子どもの思いが伝えられるように、発表の形態などを工夫する。 	<p>【思】 記録してきた観察カードをどのようにまとめるか考えて工夫して表すことができる。 （作品）</p> <p>【気】 友だちのよさに気づくことができる。 （ふりかえりカード） （観察）</p>	<p>表現・創造力</p> <p>自信・成長力</p> <p>思考・評価力</p>

5 本時の指導

(1) 目標

【思考・表現】

- ・ 飼育してきた生き物のことを誰にどんなかたちで伝えるかを決め、作品に表すことができる。

段階	活動内容・予想される子どもの反応	教師の支援と評価	備考
つかむ (7)	1 これまでの活動を想起する。 だれにおしえようかな ・かぞくにしらせたいな ・ともだちにおしえたい ・ほかのせんせいにしらせよう	・これまでの活動を想起し、それぞれの気づき、調べて分かったこと、発見したことを発表させながら、本時の活動への意欲付けをはかる。 ・知らせたい対象を明らかにさせることによって、どんなかたちにまとめるかイメージをもたせ次の活動へとつなげたい。	生き物の名前カード
かわる (30)	2 どんなまとめ方をするか考える。 ・1つの虫の絵本にしようかな。 ・かったいきものぜんぶいれたいときはどうすれば、いいかな。 ・しらべたことをいっぱいいれたいな。 ・ぼくのコオロギにぴったりなのはどれかな。 ・お話し作れるかなあ。 4 材料や道具を決定し、作業にはいる。 ・何ページの絵本にしようかな。 ・この紙のどこに生き物の絵を描こうかな ・絵の具も使ってみたいな。 ・長い紙は使ったことがないな。	・見本を提示したり、子どもの質問に答えたりすることで、子どもたちがまとめ方を考えやすいようにさせたい。 A：自分のイメージを持って、作りたいものや材料を決めて作業に取り組むことができる。 B：友だちからヒントを得て、作りたいものや材料を決めて作業に取り組むことができる。 ※ 観察カードを振り返り、飼育してきた生き物について思い起こさせながら制作させる。	絵本 図鑑 観察カード
まとめる (8)	5 今日の活動をふりかえる。 ・決めたことを発表しよう。 ・すてきな絵本にしよう。 ・決めるのが遅かったな。次はがんばる。 ・ていねいにかくとすてきだな。	・意欲的に取り組んでいる子どもに発表させ、まだ決まらない子どもの次時への意欲付けにさせたい。 ・次時に生かしたい子どもの活動を紹介する。	ふりかえりカード

(3) 評価

【思考・表現】

- ・ 飼育してきた生き物のことを誰にどんなかたちで伝えるかを決めることができたか。
- ・ 作品作りに取り組み始めることができたか。